

所、伯耆國米子製鋼所、同安來製鋼所、東京桑原鑄鋼場、東京大塚工場、等此他大阪地方に數箇處あり。

吳製鋼所其他兵器工場の製鋼爐數等は公表し能はざるを遺憾とす、鐵道院所屬工場も一二箇處に小轉爐を用ひて鑄鋼を造る處あり。

支那漢冶萍煤鐵鑛廠の銑鐵年產二十五萬噸なり、此内五萬噸は八幡製鐵所に供給し來れるか新設鑄鐵爐も二三年の後に年產額五十萬噸を出し、内二十萬噸乃至二十五萬噸は我國に供給し得るに至るへし。

●製鐵業調査會の設置

前號に豫報せる如く、製鐵業調査會の官制は本月六日發布せられたり、該調査會設置の趣旨及び委員任命の標準に就て、江木翰長の談に依れば、今回製鐵事業の調査會組織されたるは言ふ迄もなく、歐州戰亂のため鐵の需用の生じたるに、從來我國に於ては遺憾乍ら十分の產出を見ず、將來獨立自營を期するが爲め、今日に於て十分なる調査をなすを必要とし、茲に調査會を組織するに至りたるものなり、而して委員二十名内外を各方面より選定したるが、今日鐵を要求し居れる官廳は陸軍、海軍、鐵道院等なるに鐵を供給する官廳としては、僅に八幡製鐵所一箇所の外なし、尙民間側より之を見るも鐵を供給する所は、室蘭製鋼所あるのみなるが、之れとて原料を仰ぎて鋼を製造するに過ぎず、又一方に鐵を要求する者は、川崎、三菱の兩造船所を始め其需用の範圍極めて廣汎なり、故に委員任命の範圍も採鐵冶金の學者のみに限らず、鐵材使用の機械工業及び造船等に經驗ある學識者を擧げ供給するもの、供給を受くる者、兩者に對して違算なき調査を爲さしむるため、代表的人物を任命したる次第なり。云々

製鐵業調査會官制

第一條 製鐵業調査會は農商務大臣の監督に屬し其諮問に應じて製鐵業に

關する事項を調査審議す、調査會は製鐵業に關する重要事項に就き關係大臣に建議することを得
第二條 調査會は會長一人委員二十人以内を以て之を組織す、特別の事項を調査審議する爲必要あるときは前項の定員の外臨時委員を置くことを得
第三條 會長は農商務大臣を以て之に充つ、委員は農商務大臣の奏請に據り高等官及學識經驗ある者の中より内閣に於て之を命す
第四條 會長は會務を總理す
第五條 調査會に幹事を置き農商務大臣の奏請に據り農商務省高等官の中より内閣に於て之を命す、幹事は會長の指揮を承け庶務を整理す
第六條 調査會に書記を置き農商務大臣之を命す、書記は上司の指揮を承け庶務に従事す

製鐵業調査會委員

- 鐵道院技師工學博士 島 安 次 郎
- 陸軍少將 筑 紫 熊 七
- 海軍造船總監工學博士 福 田 馬 之 助
- 製鐵所次長工學博士 服 部 漸
- 正三位勳二等功四級男爵 中 村 雄 次 郎
- 正三位勳一等 高 崎 親 章
- 從三位勳一等工學博士 渡 邊
- 正四位勳二等工學博士 阪 田 貞 一
- 從四位勳三等工學博士 寺 野 精 一
- 正五位勳三等 松 方 幸 次 郎
- 從四位勳四等 和 田 維 四 郎
- 從四位勳四等工學博士 依 國 一
- 正四位勳六等工學博士 井 上 匡 四 郎
- 從四位工學博士子爵 大 河 内 正 敏
- 從五位 鈴 木 馬 左 也
- 從六位勳五等 丸 田 秀 實
- 原 田 鎮 治
- 門 野 重 九 郎
- 工學博士 香 村 小 錄

製鐵業調査會諮問案

(一)原料の調査及供給に關する事項

(説明)製鐵業の根本問題は製鐵原料の供給に在り故に汎く内外に涉りて其原料を調査し而して現實に其供給を得るの途を講ずるは刻下の急務とす據つて其調査の範圍程度及供給に關する手段方法とに就き慎重なる講究を要す

(二)製鐵業の種類調査に關する事項

(説明)國內需要の銑鐵鋼鐵材は總て内地に於て製作し得るに至らんこと固より望む所なりと雖も原料其他の關係上大に考慮を要するのみならず其實行亦決して容易の業にあらざるべし次に銑鐵は勿論鋼鐵材に就ても如何なる種類が最も喫緊にして内地製造を必要とし若くは比較的有利となすや等に就き調査講究を爲し以て就中緊要にして特殊の目的を有するもの及急迫の需要に適應せるものを選び其發達を促すに務め漸次斯業の大成を期せんとす

(三)官民製鐵業の調和に關する事項

(説明)最近製鐵事業の民間經營に係るもの漸次多きを加ふるの傾向あるは慶賀すべき現象なりとす仍つて此際官設製鐵所の事業にして若し民營事業の振興を阻害するものありとせば能く其事由を調査して兩者の調和を計り民營製鐵業をして今後益々健全なる發達を遂げしめんことを期す

(四)製鐵業の發達に必要な事項

(説明)前三項の外製鐵事業の發達上必要な事項は直接と間接とを問はず之を調査講究し其發達を助成せんことを期す

製鐵業調査會議

▲第一日……製鐵業調査會第一回會議は八日より一週間農商務省會議室に開催の豫定にして八日は午前十時開會委員中服部製鐵所次長、筑紫兵器局長、阪田博士、松方幸次郎、鈴木馬左也の五氏缺席せるのみ他の十五名は全部出席す農商務省よりは河野農相以下山次官磯部鐵山局長及び新に任命されたる幹事山内鐵政、藏川工務兩課長臨席す、劈頭農相は本會の目的に關する左の演説を試み次で議事規則案を附議して直に原案通り可決し次で上山次官は

尙ほ議事の進行に關する希望を述べ愈々既記諮問事項の協議に入りて磯部局長は各項に就き詳細説明を爲し了つて委員の質問に入りて正午休憩す

農相演説

製鐵業に付ては維新以後政府夙に其必要を認めて之れが開發を計り殊に明治三十年製鐵所の開設以來數次其規模を擴張し鐵材の供給に務めたるも尙ほ内地需要の増進に應ずること能はず民間經營に係る製鐵業の進歩亦甚だ遅緩にして必要な鐵材の大部分は依然之を外國の輸入に仰げり然るに一昨年歐洲大亂勃發以來鐵材の輸入頓に減少し其結果各種事業の蒙りたる影響頗る甚大にして將來製鐵業振興の必要を感ずること更に痛切を極む

政府は前議會に於て製鐵所擴張案を提出し其協賛を経たり然れども是只一部の需要を充し得るに過ぎず而て鐵材の需用は國運の進展に伴ひ今後益増加すべきを以て此際製鐵原料及鐵材供給の關係製鐵業の助長に必要な事項等を調査講究し以て將來製鐵業に關する根本方策を確立するは實に刻下緊要の事項なりとす然れども製鐵の事たる元と至難の事業に屬し原料其他の關係上考慮を要するもの尠なからざるのみならず其關連する所亦廣且大なる故に其解決決して容易なりとせず是特に本調査會を設け各位の勞を煩すに至りたる所以なり幸に各位能く其意を諒し慎重審議斯業の發展に盡瘁あらんこと熱望の至に堪へず

午後一時再開議事進行上の件に就て引續き協議を行ひたるが一委員より諮問事項の第一製鐵原料の調査及供給に關する事項に就き取敢ず特別委員を設け之に調査を附託すべしとの提議あり全會一致之を可決し河野議長の名にて

第一特別委員に
高崎親章(委員長)、渡邊渡、和田維四郎、倭國一、井上匡四郎、原田鎮治、門野重九郎、香村小録、福井菊三郎の九氏を

第二特別委員に
中村雄次郎(委員長)、大河内正敏、丸田秀實、島安次郎、寺野精一、福田馬之助、筑紫熊七、阪田貞一、服部漸

の九氏を選定して本會議を閉づ、爰に特別委員は別室に會合して各自委員長を互選の上午後三時散會せり九日は午後一時半より右特別委員會を開催の由尙ほ各委員の爲め河野農相は午後五時より築地精養軒に晚餐會を開き招待する所ありたり

第二日(五月九日)

製鐵業調査會特別委員會は第一部第二部共九日午後一時半より農商務省内に開會河野農相、上山次官、町田參政官、坪井副參政官、磯部鑛山局長、岡商工局長及細井、井上、西和田技師等交互に兩委員會に列席せり。

△第一部委員會 和田、原田、門野其他委員の質問に對し、上山次官、磯部局長、井上、西和田兩技師より將來に於ける製鐵原料殊に鐵鑛に關する調査の狀況を巨細報告する所あり更に十日服部製鐵所次長より説明を聽く事として午後四時散會せり

△第二部委員會 大河内、丸田其他各委員の質問に對し細井技師専ら説明の衝に當り軍需用及工業用等各種鐵材の需用狀況並に將來の見込に付質問應答あり次で製鐵所の第三期擴張の内容は本製鐵業の種類調査に至大の關係あるを以て服部委員より詳細なる説明を爲し各委員の參考に資し夫より種々審議の結果各種鐵材の實際的需給關係調査の便宜上左の如く四項目に分ち材料を蒐集し調査を進め各委員は夫々原案を作成するに決し次回は十二日午後一時半より開會協議する事とし午後五時散會せり

一、軍艦、兵器其他軍事上必要なる鐵鋼の種類數量及將來増加の見込ある種類及數量に付て分擔を定め材料を蒐集調査する事

二、工業其他に必要な鐵鋼材の種類數量及將來増加の見込ある種類數量例せば造船材料、鐵道院其他民間の使用數量等分擔を定めて材料を蒐集調査する事

三、本邦産鐵鋼材と外國産鐵鋼材との間に於ける品質の差違及原料價格製造費等を合せ調査する事

四、其他製鐵業の種類調査に必要な事項に就き各種の材料を蒐集調査する事

尙委員一同は第一回調査會閉會後製鐵所の實地視察を爲す事に決定せしが時日は未定なり。

製鐵業調査委員更迭 十日左の通り更迭ありたり

製鐵業調査委員被仰付

同上被免

第三日(五月十日)

製鐵業調査特別委員會の第一部委員會は九日に引續き午後一時半より農商務省に開會各委員並に河野農相、上山次官、町田坪井正副參政官、磯部局長、

陸軍中將 島川文八郎

陸軍少將 筑紫熊七

井上、西和田技師等出席先づ服部製鐵所次長より製鐵所の事業現狀より製鐵原料たる鐵鑛の需給關係を説明し更に進んで製鐵原料として必要なる骸炭用石炭の需給及び割合割合に關し説明を試み内國産普通炭に優良炭二三割を加ふれば相當のものを得べしとの實驗談ありたる後各委員より種々の意見出でたるが之れを総合せば製鐵業の主眼たる原料鐵鑛の供給を潤澤ならしむるには内地産鐵鑛利用の途を講ずべきは勿論廣く外國に涉りて原料調査を行ひ供給の方法を講ずること喫緊事なりとし之れに附隨して種々意見の開陳あり終りに服部次長より製鐵所に於ても目下内地産鐵鑛を成るべく利用せんと頻に研究を重れつゝある旨報告あり午後五時散會引續き十一日午後一時半より開會の筈なり

第四日(五月十一日)

第一部特別委員會は十一日午後一時より農商務省會議室に開會委員全部の出席あり本省よりも河野農相以下列席し協議に入り製鐵原料調査の範圍、區域調査方法及原料の供給を得るの方法等に就き各委員間に詳細なる意見の交換ありたるが結局井上匡四郎、倭國一、香村小録の三氏を原案作成委員に擧げ三氏は各委員の意見を參酌考慮して來る十四日迄に前記事項に對する原案を作成し十四日午後一時半より開會の委員會に報告し委員會は同日右原案に基き充分の討議を爲したる上同日決定する事となし四時散會せり

第五日(五月十二日)

▲第一部特別委員會 起草委員香村、倭、井上の三氏及び高崎委員長は十二日午後一時半より農商務省に會合し製鐵原料の調査及供給に關する事項に付き答申案の作成に着手し十三日中に完成の上十五日午後一時半(昨報十四日開會の所變更)より特別委員會を開き充分審議の上本會議に提出する事に決定したり

▲第二部特別委員會 は十二日午後一時半より農商務省に開會阪田、丸田の兩氏を除く全部委員の出席あり

▲寺野委員は造船用鐵鋼材に就て

▲服部委員は製鐵所の製品に就て

▲島委員は鐵道院使用鐵鋼材料に就て

其他軍事及び工業に必要な鐵材の種類數量並に將來増加の見込ある種類數量に付き各委員より調査書を提出し説明する所あり之に對し交互に質問應答を重ねしが要するに各委員の調査項目は多方面に亘れるを以て更らに調査項

日の分類を爲し且つ調査方針等に付き詳細の打合せを爲し其の決定に基き各委員に於て向ふ一週間内に調査書の調製を爲す事となり五時半散會せり次回は十九日午後一時半開會の筈なり

第六日(五月十三日)

第一部委員會は十三日午後一時半より開會井上、倭、香村三委員出席起草中なりし製鐵原料の調査及び供給に關する答申案を脱稿したるが来る十五日午後一時半より開會の第一部特別委員會に附議し更に審査の上本會議に提出することに決し同五時半散會せり

第七日(五月十五日)

第一部特別委員會は十五日午後一時より開會、河野農相以下の出席あり原案起草委員井上、倭、香村の三氏が作製したる製鐵原料の調査及供給に關する内外の現勢より將來に亘る詳細なる草案を基礎とし逐條的に熱心詳細なる調査を行ひしが全部決定に至らざるを以て引續き特別委員會を開會する事となし五時過散會せり而して右調査原案の内容は製鐵事業の將來に對し頗る重要な關係あるを以て一定の時期に至る迄當局者及委員に於ても秘密を嚴守する事と爲せりと

第八日(五月十六日)

第一部特別委員會は十六日午後一時半より開會河野農相、上山次官、町田、坪井、兩正副參政官磯部礦山局長並に委員長高崎親章氏以下委員全部出席前日に引續き起草委員の作製に係る第一諮問事項答申案の後半に就き審議する所ありて同五時散會せり因に第二部特別委員會は來十九日開會の筈なりしが當日は農商務省の地方官會議開催さるゝを以て延期し二十日午後一時半より開會すること變更したる由

第九日(五月廿日)

第二部特別委員會は二十日午後一時より農商務省內製鐵所長官室に於て開會中村委員長以下各委員出席農商務省より上山次官磯部礦山局長及藏川幹事列席先づ第二諮問案「製鐵業の種類調査に關する事項」につき各委員に於て夫々答申案を作成提出する事に決定し居りたるを以て各自答申案につき逐條説明する所あり該答申案につき協議決定を爲し同四時散會せるが何れ二十三、四日頃には本會議を開會附議する等にて尙第三、第四の諮問事項も同時に協議を爲すべし(以下次號)

●製鐵所官制改正

臨時建設部設置

曩に閣議にて決定したる製鐵所擴張に伴ふ製鐵所官制中改正の件は十八日官報勅令第三百三十五號を以て公布したるか其要領は參事二人を「三人」に副參事三人を「五人」に技師三十一人を「四十二人」に書記五十四人を「六十六人」に技師百十五人を「百四十人」に増員し同所は從來工務、銑鐵、鋼材、經理の四部に分ちたるを今回製鋼部を加へて五部とし各部事務の分掌は農商務大臣之を定め同時に勅令第百卅五號を以て同所に臨時建設部を設置し臨時職員を増置せる旨公示し孰れも即日より施行せり。

第一條 製鐵所擴張の事務に従事せしむる爲製鐵所に臨時建設部を置く

第二條 同所に臨時左の職員を増置し臨時建設部に屬せしむ

副參事專任一人(奏任) △技師專任七人(奏任内一人を勅任と爲すことを得)

△書記專任二人(列任) △技師專任十二人(列任)

製鐵所職員任命

十八日官報を以て製鐵所官制を改正し職員を増員及び臨時職員設置の結果左の通り任命ありたり

任製鐵所參事(六等)

製鐵所副參事 栗本 快 一

任製鐵所副參事(七等)

製鐵所書記 白井喜三郎

製鐵所技師(七等)各通

野鋸 ▲同瀧川長雄 ▲同大石源治 ▲同城正俊 ▲小林長輔

任製鐵所技師(七等)各通